

2017 2/14

No.2036

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —

第38回 ヨコハマ映画祭

映画ファンのための熱いまつり



横浜の映画ファンが中心となって運営する映画の祭典「第38回ヨコハマ映画祭」の表彰式と受賞作の上映が5日、横浜市中区の関内ホールで開かれ、三浦友和さんら銀幕スターが登場し、約1100人が映画人の活躍に拍手を送った。



contents

視点・点描	3
健康阻害要因と向き合う	
講演録	4
安倍政治のゆくえ	
元財務大臣 藤井 裕久	
政治	8
国民的議論避けた退位問題	
結論ありき、の有識者会議	
政治	12
日米関係「悪化」大幅増54%	
目立つ世代間ギャップ	
企業最前線	14
花盛りの乳酸菌入り商品	
チョコやラーメンも登場	
暮らし2017	16
パーキンソン病進む研究	
広告珍談	18
広告はたのしい③	
京都弁と標準語	
NNAアジア経済レポート	19

事務局だより

◇3月定例講演会

2017年3月16日(木)

午後1時30分～3時

横浜情報文化センター6階

「情文ホール」

講師は内閣総理大臣夫人の

安倍昭恵さん

演題は「日本の未来のために

～女性が輝く社会づくり」

視点 点描



健康阻害要因と向き合う

厚木市役所本庁舎の壁面には、大きく「セーフコミュニティ認証都市あつぎ」の文字とマークがある「写真」。初めて見たとき「安全なまち」って誰が決めるのだろうかと思っただけ、説明を聞くとセーフコミュニティ（SC）とは、「安全なまち」という「状態」でなく、安全の向上に「取り組んでいる」人々を指すらしい。

SCは、推奨する世界保健機関によると「健康阻害要因を予防し、安全なまちづくりを進めているコミュニティ」。厚木市は2010年に国内3番目の認証自治体となり、18年11月には第9回アジア地域セーフコミュニティ会議の開催地になることが決まった。

健康阻害要因と考えられるものは、多岐にわたる。事故・けが、

犯罪・暴力、自殺、ストレス…。まず、いずれも「偶然の結果」ではなく「予防できる」と考える。なぜ起こるのか、どうすれば防げるのか。「気をつけよう」というだけでなく、安全性向上プログラムは「根拠に基づいた」ものであるべきで、事故発生の「データを蓄積」し、取り組みの影響・効果の「評価基準」が欠かせないという。精神論にしないところが個人的には非常に印象に残った。

厚木市では2002年ごろ、実際



に殺人・強盗・暴力団抗争など凶悪犯罪が相次いだ後、刑法犯認知件数が減少して市民の

体感治安は悪化したままだった。「不安」を取り除くために何ができるかの模索が、SCの取り組みにつながった、という。

さいなことが、事故を招く。行政が旗を振って始めたが、SCには地域住民の理解と協力が不可欠だ。例えば、生い茂った樹木の枝を刈りこみ、信号を見やすくする。自転車に乗ったまま駆け上がった歩行者と衝突しないよう、坂道（右半分が階段、左半分が斜面）を改修し、車止めのある場所に斜面を移す。地域の人が「発見し、問題を解消した事例だ。一度対策を講じればそれで終わり、ではない。SC認証とは健康阻害要因に日々立ち向かい続ける、という決意表明でもある。これって、働き方改革にもつながる考え方も。

（神奈川新聞社相模原・県央総局長

青木 幸恵）

京都弁と標準語

くげぬまに住む、孫のアンナとマリア。ある日、自転車で茅ヶ崎のわが家へやってきた。

「ナンデキタノ」とボクが聞いた。これが、事件の引き金になった。

くげぬまに戻った孫たちは、母親に報告した。ボクの娘・美和にある。しばらくして、カッコした美和から電話がかかってきた。

ボクたち高齢者夫婦の様子はいかがかと見に行かせたのに、「ナンデキタノ」とは、何ごとかと。意味、わかりますか。

京都に生まれ育ったボクは、話しことばはもちろん京都弁。茅ヶ崎に暮らして50年ほどになるが、京都弁を関東の標準語?に直そうなんていう気はまったくない。マゴたちは、生まれてからずっとくげぬま。標準語で育ってきた。京

都弁を知らないマゴと、標準語が話せないボク。

「ナンデキタノ」とは、何をしにきたのではなく、何という乗物できたのかと聞いたつもりである。ナンデは「何で」、キタノは「来たの?」のこと。もうお分かりいただけたでしょ。

「アホ」という2文字は、京都ではしょっちゅう使う。アホとか、アホかいなとか、ちよつとからかい気味な、日常の用語。ところが関東で、アホかというのと、たんにカッコする、かたや京都でバカとか、バカ野郎というものならカッコする。

長年、あちこちで講演してきたボクの話。きっちりみなさんに通じていたのかなと、いまになって心配になってきた。

おひや、くださいという「おひや」は女房詞で、水のこと。つめたくなつたご飯も「おひや」という。「おめぐり」とか「おまわり」は、ご飯のおかず。「オイシイ」はうまい、「おシヤモジ」は杓子、「おスモジ」は寿司、「オコワ」は赤飯。「コモジ」は鯉、「フモジ」は鮒。塩は「シロモノ」、そうめんは「ホソモノ」といっても、いまの京都人に通じないだろうけど。

そんな表現は室町時代、宮中の女官が使っていたとされ、『御所ことば』という。

『尼門跡ことば』もある。「ごぜんさま」は御住職、「オカチン」はお餅、「アモジ」は金網、「おひどり」は焼くこと。「アラシヤイます」は、いらつしやいますのこと。

いまや国際観光スポットになった錦市場で、「ハヤ」は新鮮なもの。「シマリ」は少し鮮度が落ちたもの。

「モドリ」は、煮物にするしか使い道がないもの。魚屋は店先にサカナを並べるとき、京都では頭を下に、関東は上にする。ことばとともに、その分水嶺はどの辺りだろう。

「あずま男に京女」は、たくましい関東男とやさしく優雅な京女。わが家は、その逆である。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住) (図) あずまから下つてきた人と、都人が会おう京都三条大橋。お伊勢詣りを広告する『伊勢参宮名所図会』より

